1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名　－　　）

事業所番号	0690800297		
法人名	社会福祉法人正覚会		
事業所名	グループホームライフケア黒森		
所在地	山形県酒田市黒森字葭葉山54番１０		
自己評価作成日	平成26年11月25日	開設年月日	平成２６年　４月　１日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桧町四丁目3-10		
訪問調査日	平成　26年　12月　18日	評価結果決定日	平成２７年　１月１５日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者が「心地よい感覚」を持ち、生活できるよう支えていくことをコンセプトの中の一つに掲げ、ご利用者は勿論職員も笑顔の多い職場となっています。心地よい感覚を持って頂けるように、認知症緩和ケアの取り組みとして「学習療法」を取り入れており、現在はご希望のあるご利用者を対象に提供しています。また、学習療法を通じて培った認知症に関する知識やコミュニケーション技術を活かし、ご利用者の小さな変化にも気づける職員となるよう日々の関わりを大切に対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、昨年４月、酒田市南部の農村地域の落ち着いた環境の中に、法人の高齢者介護関係施設に隣接して、地域密着型事業所の一つとして設置された。コンセプトは、「心地よい感覚」で、「その人らしさを大切に笑顔で生活」「穏やかな生活」 、そして「地域の一員として生活」が出来るように支えることである。まだ開所して後約8カ月であるが、職員はコンセプトを大切にして支援しており、、また、地域との交流も進み、防災面の連携なども進んでいる。そして、「学習療法」を取り入れて認知症の進行を遅らす努力を行うなど、特色を出しながら、地域密着型のグループホームとして円滑に活動し始めた。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1．ほぼ全ての利用者の
			2．利用者の2/3くらいの
		○	3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1．毎日ある
			2．数日に1回程度ある
		○	3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている　（参考項目：38）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1．ほぼ全ての家族と
		○	2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
			2．数日に1回程度
		○	3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1．大いに増えている
		○	2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1．ほぼ全ての職員が
		○	2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
		○	3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1．ほぼ全ての家族等が
			2．家族等の2/3くらいが
		○	3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1　自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内の数箇所に事業所コンセプトに掲示し、全職員の視覚に届く様にしている。 また、会議等でコンセプトの共有や判断に困ったときの判断基準となることを説明し実践につなげている。	法人職員が意見を出し合って作成した、「その人らしい生活」「穏やかで笑顔のある生活」「地域の中での生活」を支援するというコンセプトを、玄関や事務所に掲示し、また、月例職員会議資料の頭部に印刷して確認し合い、理念の共有化を図っている。職員の理解も進んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流までは至っていないが、地域行事（運動会や敬老会）に参加するなどして地域と交流を持っている。法人全体で開催している夏祭りにも積極的に参加している。	招請を受けて地域の運動会や敬老会に参加するとともに、敷地内法人の夏祭りには地域住民の参加がある。また、三味線や腹話術のボランティア訪問を受けたり、中学校から音楽祭に招待を受けたり、地域との交流を積極的に推進し、地域の一員になりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症緩和ケアとして取り組んでいる学習療法について広報等で情報を発信したり、地域の会合等に出向き事業所の説明や認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を有効に活用し、事業計画や実績報告や活動内容を報告し、委員からの意見を頂きながら運営に活かしている。	2か月に1回、酒田市職員・地域包括職員・自治会長・民生委員・家族代表と職員で開催し、運営状況を報告した後、時宜の話題等について意見交換を行っている。その中では、事業所内温度差の改善、冬期の運動不足の解消、方言ラジオ体操の活用などについて率直な意見交換が有り、その意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での情報提供や運営に関し疑問点がある場合は、市町村担当者に電話や直接出向き指導を受けたり、案内文書等は電子メールでのやり取りを行っている。	運営推進会議に毎回酒田市職員から参加してもらい、情報を交換している。また、運営上の疑問点が生じたとき等機会ある毎に担当課に出向き指導を受けたり、メールで情報を得たりしており、良好な協力関係が築かれている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束に関する研修会を内部で開催し、身体拘束をすることでおきる弊害等の理解に努めている。また、毎月開催している運営会議で、法人全体の身体拘束に関する状況を把握している。玄関の施錠に関しては、防犯上や周辺の環境面を考慮し施錠させていただいている。	法人は身体拘束廃止宣言をしている。職員には、法人の年間研修計画に位置付けられた身体拘束に係る研修を受けさせるとともに、事業所内でも、敷地内他施設と共同で、拘束される体験を含めた学習会を実施している。職員の拘束に係る理解は進んでいるので、次のステップに向けた研究が課題になっている。	4月に設置されたばかりで、現在は防犯と環境面の懸念への対応が大きな課題となっているが、より良いケアを目指して、施錠をしない支援の工夫に係る検討会の実施を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年度当初に法人内の社会福祉士より全法人職員に対し制度についての研修会が開催されており、理解を深め日々の介護に活かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年度当初に法人内の社会福祉士より全法人職員に対し制度についての研修会が開催されており、理解を深め日々の介護に活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に直接ご家族と管理者が面談する機会を設け、事業に関する説明や質問のやり取りを行い、ご家族が納得して頂いた上で、重要事項説明書及び契約書の説明・同意・契約している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・ご家族から直接の話や聞いたり、年に1回、満足度調査アンケートを実施しサービスの質を向上に努めている。またその結果をご家族にも公表している。	利用者や家族からは、日常生活・面会・電話やメールで、さらにはクリスマス会など家族参加の行事の際など、折に触れ、話しやすい環境の中で、率直な意見をうかがっている。また、法人施設全体の取組みとして年1回満足度調査アンケートを実施しており、これをサービス向上に活かしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員が個人面談する機会があり、意見や提案を聞くことができている。また定期的に事業所会議を開催しており、意見を反映させている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標・実行プランシートを作成し、個々の目標などを記載し、年2回上司と面談し、達成状況などを確認している。また、個人評価シートを活用し他職員から客観的な評価を受けている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でキャリアパス制度を取り入れ、経験年数に応じた研修プログラムを実行している。また、外部研修も受講している。	法人の研修体系・年間研修計画に沿って職員に研修を受けさせるとともに、月例会議の際に情報を提供し合ったり、事故の事例等を参考に全員で話し合ったりしている。今年は外部研修への派遣が少なかったので、来年は積極的に機会をとらえたいと考えている。また、職員の自己目標を設定しているので、上司との面談等を通じて、職員のキャリアアップを図ることとしている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	酒田市サービス事業者連絡協議会「地域密着型サービス事業所部会」に所属し情報交換を行っている。また、山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会へ次年度より入会できるよう準備を進めている。	酒田市サービス事業者連絡協議会「地域密着型サービス事業所部会」に参加して、事業所と職員のネットワークを築き、それをサービスの向上に活かしている。来年度は、県グループホーム連絡協議会へ参加し、研修会や地域内での交換実習を活用したいと考えている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者と管理者が事前にお会いし、本人の状況や要望等に耳を傾けながら情報収集を行い、良好な関係づくりに努めている。また入居前に24H事前聞き取り表の記載をご家族に依頼することで、入居後も本人の生活リズムが継続できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と管理者が事前にお会いし、要望等に耳を傾けながら良好な関係づくりに努めている。また入居前に24H事前聞き取り表の記載に関する目的を説明し、協力を頂くことでご家族が安心できるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	的確なアセスメントを実施し、必要としている事、サービス内容を見極めながら、相談の内容によっては法人内外の他サービスへの連絡調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活における役割が入居後も継続できるよう職員も協力し、やったことに対し感謝の気持ちを伝えながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者毎に担当職員を配置し、ご家族と電話やメール等で連絡を密に取りながら、本人とご家族との関係が断ち切らないよう、床屋・通院・外出等を無理の無い範囲でご家族が対応できるよう調整している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の親類や知人、友人が気軽に面会や外出等ができるよう努めている。ご利用者との会話の中からなじみの場所を聞き継続してかけられるよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりの性格を理解し、ご利用者同士や職員との関わり合いが持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を断ち切らないよう、必要に応じて相談や助言を行なうよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを尊重し、できるかぎり本人に決定権を持っていただき、意向の確認が困難な場合は、ご家族も交えながら相談し、利用者本位に努めている。	利用者・家族からは、利用開始前に生活状況・生活歴・要望等を詳しく聞き取り、開始後は共同生活での会話・つぶやきなどを注意深く聞きながら、一人ひとりの「24時間シート」やパソコンを活用した個人毎の「日々の記録」を整備している。判断の難しい場合はこれらを参考に本人本位の支援を検討している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人は勿論、ご家族や面会者の方々との関係を大切にし、生活暦や趣味等の把握に努めている。また、くもん学習療法実施中の1対1、1対2学習の会話のなかでも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	プランの更新時や状態に変化があった際は、24Hシートを更新している。また、日々の申し送り等で状態の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、月に1回担当職員が計画の進捗状況を確認している。 また、ご利用者及び関係者との連携の中で必要となればサービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しができるようにしている。	介護計画に基づき1ヶ月毎にモニタリングを実施し、それを踏まえて、6カ月毎に計画を見直している。見直しに際しては、家族の意見を聞き、モニタリングや個人記録を踏まえ、管理者を含むサービス担当者会議でカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	より良い介護計画の作成には、本人・家族の意見が反映されることは極めて大切であり、暮らしを重視した家族の意見や本人の意向が記載できる書式・場所の設定・方法など、さらなる工夫と検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は日々パソコン入力しており、職員間での情報共有が可能である。見直しが必要な際には、随時、ミーティングなどで報告し検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店に買い物に行ったり、コミュニティーセンターでの地域行事に参加したり、地域にある社会資源を活用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、できるかぎりなじみの関係が継続できるよう、本人・家族の意向を確認し対応しており、看護職員を中心に医療機関や家族と連携を図り対応している。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。受診時は、通常は家族の同行、必要な場合は看護職員が同行している。家族同行受診に際しては、本人の健康状況に関する資料を持参し、結果は職員が連絡を受け、それを個人記録に記載し、情報を共用している。	受診に際しては、診察の参考に資するため、日ごろの様子や健康状態を書面で医師に伝え、また、診察結果を記録に残し職員全員と家族が情報共有できるよう、双方で活用できる書面の様式について検討されることを期待したい。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理や、身体的な変化があった場合は速やかに状況を報告し、指示を仰いでいる。必要に応じて主治医へ情報提供するなど適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と連絡を密にし、情報共有に努めている。 また、入院中は面会に出向き状態を確認すると共に地域医療連携室と連携を図りながら、退院後の体制作りに努めている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に事業所の対応可能範囲を説明し、共同生活が困難になった場合は本人・家族と相談しながら今後の生活を検討している。	利用開始時に、重度化した場合に事業所が出来ることと出来ないことを詳細に説明して、家族の理解を得ている。実際の事例はまだであるが、重度化した場合は、かかりつけ医・家族・関係者で話し合い、今後の方針を確認しながら、法人の施設や医療機関などの協力を得、本人にとって最も適切な方法を検討することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で救急救命講習を行っている。また、急変、事故、夜間帯の対応などマニュアルを作成し、速やかに対応できるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し要綱に従って年2回の訓練を行っている。その内の1回は地域と合同訓練を開催している。	年に2回大きな訓練を行っている。うち、春は地域の訓練に参加し、秋は事業所を含む法人施設全体と地域と合同で、黒森自衛消防団・住民の協力を得て、大規模な避難訓練を実施した。そのほかに2回、隣接施設と共同で避難訓練を行い下り坂道を車椅子で避難する方法等について、実践的な訓練を行っている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員倫理規程を定め、年度当初に尊厳やプライバシーについて研修を行っている。 また、メディアに取り上げられたことなどをミーティング等で情報共有しながら個々の言葉かけについて振り返っている。	一人ひとりの人格の尊重とプライバシー保持を確実にするため、年度当初に倫理規定の徹底を図る研修を行うとともに、折々に、報道事案を参考に事例の勉強会を行っている。特に現在は、人格尊重の基本の言葉かけなどについて重点的に勉強し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意図的に表情や反応を観察し、ご利用者の思いを聞きながら自己決定できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目安の時間帯はあるが、ご利用者の体調や希望に応じて食事や入浴の時間を変更している。諸活動への参加もご利用者の自由とし、外出の際は希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力も得ながら、身だしなみへの配慮が行われている。散髪等に関しては、行きつけの理容室へ行ったり、施設に来所していただくなどして対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の調理は行っていないが、食事の準備や盛り付けはご利用者が自主的に手伝いをしている。また、バイキング食や事前に個々の希望を確認し、メニューを選択することができる選択食を月数回行っている。	季節感あふれる献立で委託業者が調理した食事を、職員・利用者が一緒になって盛り付け、配膳し、楽しんで会食している。、また、後片づけも一緒に行っている。献立は、「季節の味覚膳」・バイキング・肉か魚の「選択メニュー」があり、利用者の好みに配慮された食事となっている。また、職員と利用者が一緒におやつやケーキを作り、作って食べる楽しみや、行事で外出した際にお寿司を楽しんだりと、食を楽しむ多様な取組みをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を把握するために記録をし、摂取状況について、職員間やご家族と共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の歯磨きや義歯洗浄の声掛け・誘導をして、必要時は介助をさせていただいている。		
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握し、トイレにて排泄できるように支援している。オムツ交換を行っていた方が、トイレ誘導行い本人からの訴えがあるようになり、失禁はあるがトイレの排尿可能となったご利用者もいる。	排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、声掛けと誘導によって、トイレで、できるだけ一人での排泄を支援している。おむつ使用だった利用者が、パットを使用しながら、、トイレで排尿出来るようになった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	同一法人の事業所で管理栄養士も配置されており、栄養面でも考慮された献立となっている。排便チェック表を活用し、排便周期の把握ができるようにしている。また、ご家族とも情報を共有し、便秘の予防に努めている。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者の状態や希望に応じて入浴して頂いている。また、入浴の曜日に関しても、希望に添って対応できるようにしている。	利用者の希望や体調を考えながら、少なくとも週2回は入浴できるよう支援している。浴槽には両側に手すりが付いて安全性を高め、また、入浴を好まない利用者には声掛けを工夫するなどで、清潔を保てるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を考慮し、休息の声掛けを行っている。夜間は一人一人の就寝時間に合わせ、夕食後もゆっくり過ごして頂けるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を把握し、薬の変更時には連絡を頂けるようご家族にもお伝えし服薬介助が行われている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントにて生活歴や趣味などを把握している。また、行事は、季節を感じていただく事も目的に計画している。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を感じていただけるドライブや外出も積極的に行っている。近所の散歩や買い物などの日常的な外出も職員と一緒に行っている。	天気の良い日は広い敷地周辺で散歩や買い物に出かけている。また、酒田まつり見物・美術館観賞・「白糸の滝」観望等へ出かけたり、さらには家族の協力も得ながら帰宅・墓参りをしたり、馴染みの美容室に行ったり、、友人を訪問したりと、日常的に外出する機会をつくり、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い銭を金庫で管理させて頂き、希望時や必要時対応している。その際、できる限りご利用者が支払いやおつりを貰う事ができるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話連絡ができる対応ができている。また、遠方の娘さんと手紙のやりとりをしているご利用者もおり、対応ができている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建設時にインテリアデザイナーのアドバイスを頂き開所した施設でもあり、心地良い空間となっている。今後も生活感を意識して環境整備を図っていきたい。	居間は広く、明るく、床暖房などで温度湿度も適切に管理され　、真ん中にテーブルが、テレビの前にはソファーが配置され、利用者が思い思いに寛いでいる。大きな窓越しに庄内平野とクロマツ林が眺められる。壁面には、皆で作成したサンタの切り絵などの作品で飾られ、行事の楽しそうな写真が貼られている。穏やかで温かい雰囲気が感じられる共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとソファーがあり、気の合う方同士で過ごす事ができるよう座る位置も検討されている。また、居室で一緒に過ごす方もいる。		
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族に説明し、理解と協力を求めており実際にタンスやテレビ・ラジオ・椅子等を持ち込んだご利用者が数名いる。	各居室には洗面台、トイレが設置され、作り付けの家具が設えられている。本人が使い慣れた椅子を持ち込んだり、莫蓙を敷いたり、また、家族との思い出の写真などで壁面を飾り付けられたり、、それぞれ居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を設置し自室の認識ができるよう配慮している。また、居室の入れ口にフックを設け自室を認識できるような環境を整えている。		